

樹木の水やりと夏場の植え替え

- 水やりのポイント
- 夏場の植え替え
- 土の状態と水切れ・根腐れ
- うどんこ病とハマキムシ



京都市都市緑化協会

てらうち 桂子



サルズベリ。漢字では「百日紅」と書き、長い花期が特長。白花を咲かせる種類もある。

毎日暑い日が続きます。乾燥が続くこの時期は、樹木も水やりが必要です。コウモリガなど穿孔性の害虫予防のために樹木周りの草刈りを徹底しましょう。またサルズベリなどが、うどんこ病の1回目の発生ピークを迎えます。ムクゲなどはハマキムシへの対策も必要です。

今月の作業

地植え樹木への水やり

基本的に水やりは必要ありませんが、今年植栽したばかりの木や、根の浅いツツジ類、コニファー類には夏場の水やりが必要です。特に乾燥注意報が出ている時は気をつけます。乾燥で表土が固まっている場所では、普通に水やりをしても水が地表を流れ去ってしまうので、細かいシャワー状の水で時間をかけて灌水します。地表を軽く耕す中耕や、土を盛り上げて作った水鉢なども効果的です。

鉢植え樹木への水やり

鉢植えの樹木は、地上部分に対して土の量が不足ぎみである場合がほとんどです。このため、葉の蒸散が盛んなこの季節は水切れを起こしやすく、十分な注意が必要です。鉢植えの水やりで失敗しないためのポイントは次のとおりです。

- ① 地上部とのバランスのとれた十分な大きさの鉢を使う

面倒でも1〜2年に1回、春先に植え替えをしておく、夏場の水やりがしやすい鉢になります。鉢を今より大きくし

たかない場合でも、春先であれば周囲の土を落として根を整理すると、元の大きさの鉢に植え直すことができます。しかし、本来は植え替えに適さないこの時期ですが、水切れを起こしやすい鉢を庭に置いたまま家を長期間空ける場合は、思い切って植え替えるのも1つの方法です。

② 透・排水性のよい土にする

何年も植え替えていない鉢植えの土は、透水性・排水性ともに悪くなっています。透水性とは水の染み込みやすさのことで、水やりの際にウォータースペースにためた水がなかなか引かない場合は、透水性の悪い土です。このような土は鉢全体に水が行き渡りにくく、鉢の内部にできた「水みち」を伝って水が鉢底に流れ出るため、いくら水をやっても植物がしおれやすい状態になります。

また、排水性の悪い土も問題です。水切れは起こしにくいですが、夏場は毎日水をやる事が多く、排水性が悪いと根腐れの原因になります。この時期は植物も暑さで弱っているので、根腐れは命取りになりかねません。土がいつ見ても湿っている、鉢の大きさに対して植物が貧弱である、葉の色が悪い、などといった根腐れの兆候があれば、水やりをやや控えみにして秋まで様子を見ましょう。透水性不良、排水性不良のどちらの場合も、秋以降春先にかけての植え替えをおすすめします。

③ 水切れと根腐れの見分け方

水切れと根腐れを見分けることができ



枝先に10〜20cmの穂状の花をつけるブッドレア。よい香りを放つ。

れば、適切な対策を取ることができます。水切れの兆候は、まず枝の先端から現れます。高い所や枝先がしおれ、葉が変色して落葉したり枯れ枝が出たりします。一方根腐れは、株全体の弱りとして現れます。全体に生気がなくなってしまうときたり、葉の色が悪くなることでわかります。

樹木の場合、水切れで枯死するまでにはかなり時間がかかりますが、根腐れは一気に枯れてしまうことがあります。

うどんこ病の防除

雨があがった後に乾燥した日が続くと、サルズベリなどにうどんこ病が発生します。葉の表面や新芽が白い粉に覆われたようになり、ひどい場合には新芽が萎凋したり、すす病の元凶になるので殺菌剤を散布します。

ハマキムシの防除

ムクゲなどにハマキムシが発生します。被害の発生は9月ごろまで続き、あまりひどく葉を食害されると花が貧弱になります。薬剤の散布はハマキムシには効きにくいので、浸透移行性の殺虫剤の粒剤を根元に散布して防除します。

夏場に植え替えが必要になった鉢植え樹木 (シマトネリコ)



1 植え替えが必要なシマトネリコ。ひと回りか二回り大きい鉢を用意する。



2 鉢底に鉢底石を敷く。



3 鉢の半分程度の高さまで土を入れる。タキイの花の土「花御殿」などが適当。



4 できるだけ根鉢を崩さず、周囲に巻いた根を軽くほぐしていく。最初は根鉢の下の方から、次に根鉢の肩の土を、最後に横の土を落としていく。



5 ほぐし終わった状態。



6 株を鉢の中央に置き、周りに土を入れていく。



7 ある程度土を入れたら、根と土が絡むように棒で突いていく。その後は再度土を入れ、棒で突いて…、を繰り返して鉢の上部まで土を入れる。



8 ウォータースペースを数cm残す。



9 鉢底から水が流れ出るまで、たっぷりと水やりを行う。



10 枝葉の密度を減らし、葉からの蒸散を抑えるため、剪定する。新芽が見える少し上くらいで切る。春～初夏咲きの花木は、8月の剪定で、花芽のついている枝を切ってしまう場合が多いので注意する。

植え替え完了



夏場の植え替えなので、活着して生育を始めるまで7～10日程度は日陰で管理する。